

龍の仕事展を活用した人材育成プログラム D-INTERNSHIP



岡山県 No.1 インターンシップ・プログラム 主催：D-INTERNSHIP実行委員会 後援：倉敷市
事前研修≫企業研修≫中間研修≫直前研修≫龍の仕事展 PDCA≫成果発表会≫事後研修≫最終成果発表会のプログラムを通して
社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養います。



2019 年度 教育活動助成

公益財団法人 福武教育文化振興財団

吉備
再発見

Discovery
KIBI



高梁川流域の企業文化 晴れの国に棲む
龍の仕事展 2019
The convention which a dragon laid
主催：龍の仕事展実行委員会

龍の仕事展を活用した人材育成プログラム

募集要綱

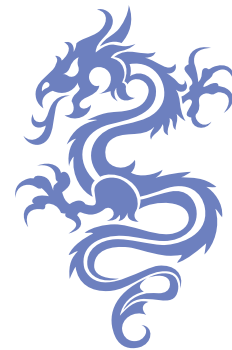


D-INTERNSHIP とは

D-INTERNSHIP とは、「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシップ・プログラムです。（「D」とは「龍の仕事展」の「龍＝Dragon」の「D」です）

大学生に、地元を代表する企業を知ってもらい、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学んだり、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てることを目的としています。

このプログラムは、【事前研修】>>【企業研修】>>【中間研修】>>【直前研修】>>【PDCA実践（龍の仕事展）】>>【成果発表】>>【事後研修】>>一般公開の【最終成果発表会】の8つのプログラムから成ります。【成果発表】までは、参加者全員が必須のプログラムです。さらに、【成果発表】までに優秀な成果を修めた学生の中から、一般公開の最終成果発表会に向けた特別研修【事後研修】と【最終成果発表会】を受けることが可能です。

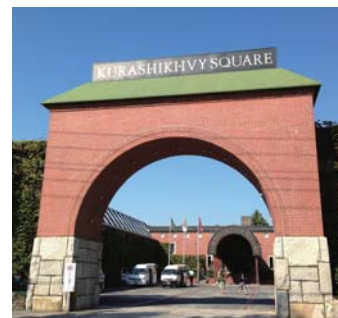


龍の仕事展とは

龍の仕事展とは、毎年9月に倉敷アイビースクエア内のアイビー学館を会場として高梁川流域のものづくり企業、約30社が企業文化の展示を行い、商品のPRや販売を行うものです。2010年の国民文化祭から毎年開催され、今年で10回目を迎えます。

開催時期はシルバーウィークと呼ばれる秋の行楽シーズンです。県内で最も観光客を集める倉敷美観地区へも、全国から、また海外からも大勢の来訪者が訪れます。昨年までの実績で「龍の仕事展」は、12,000人～14,500人を越えるお客様を迎えています。

出展する企業は、高梁川流域を代表する、創業100年以上の歴史を持つ老舗企業から、新たに地域ブランドを立ち上げ、次世代へと受け継げるものを生み出す努力を続ける企業達です。



龍とは

「龍」とは「高梁川」のことです。古来、高梁川は「吉備のくに」の中核として、多くの文化・産業を生み出し、人や物を運び、多くの地域をつなげました。このイベントでは地域名を持つ河川の名前ではなく、広く流域にあまたの恵みを与えた母なる川として、「龍」と呼び、広域連携の旗印（シビックプライド）としています。

同じ水で生かされている備中エリアの人々が、広くつながり協力しあうことで、私達が共に生きる地域のくくりを捉え直し、新たなパラダイムシフトの再生と創出を目指しています。

「龍」というシビックプライドは、私たちが「龍の末裔」として、この地を愛し、さらに豊かにしていきたいと願う旗印です。この流域に暮らす人々が生涯に渡って誇り高く、心豊かな生活を営むために必要な生活具を残し、伝え、また新たに企画・開発していくことに結びつき、そして固有のライフスタイルを実現していくことを目指しています。母なる川の恵みを受け、この地で「モノ」を生み出すことを「なりわい」とする「龍の末裔」の仕事を集めた展示が「龍の仕事展」なのです。



企業文化に焦点をあてた地域文化の展示とは

ものづくりに関わる企業は、その発生・発展・開発商品が地域特有の気候・風土・歴史・文化に大きく影響を受けて派生しています。すなわち、土着企業の生き残るための工夫こそが、地域と密接に結びつく固有文化を形成するものなのです。

そしてこれは、資本も人材も弱い地方のブランドが、都市部と戦略的に差別化できる重要な切り口であり、地方にこそ都市のブランドが切り捨ててきた「歴史」や「文化」が強く残っている強みを再認識すべきなのです。昨今の海外市場に対しても、日本が次に輸出すべき「商品」には、他国が真似できない「日本文化」（クールジャパン）と言う切り口が期待され、重要な切り口になってきます。

企業文化の展示は、「製品」を売らんが為の展示・即売ではなく、しっかりと企業文化に焦点を当てた展示を行い、商品が生まれてきたバックグラウンドや作り手のこだわりや情熱といった「商品価値」を伝え、その魅力を十分に理解していただくことを目指します。これにより、企業自体も自らの足元を掘り下げることで、見落としていた自社の付加価値を再認識し、「製品」から真の地域ブランドといった「商品」を生み出すきっかけになります。

更に、全国から大勢の観光客が訪れる倉敷美観地区の中核的施設である倉敷アイビースクエアを会場として地域企業の展示・商品の販売を行うということは、地域のファンが集まる場所で地域ブランドを訴求できる強みに加え、全国各地の人々に対し、開発中の商品や新商品のテストマーケティングを行うことも可能で、これは活用次第で十分なコンベンション機能を有していると言えます。

加えて、来訪者並びに地域住民には、特産品や企業を通して、広く地域の文化を学ぶことのできる機会と場の創出を与えられるという意味では、広域学習観光、誇りを持って活躍する中小企業の認知による新たな就業機会の促進にもつながる可能性を持つものです。



龍の仕事展を活用した人材育成プログラムとは

若者たちの地元志向が高まる中、「地域」が職場と家庭、友人という単に慣れ親しんだ環境の中で小ぢんまりとした自己実現の場に留まるのではなく、自らのアイデンティティを育てた地域の価値に気づき、地域の発展と共に自己実現を目指す地域貢献へ広げ高めることへのきっかけを、本プログラムを通して学生たちと一緒に考えていきます。

多くの企業が地域戦略を持つとともに、地域と連携してその社会的存在意義を実現しています。つまり、地域を深く理解することは、どのような仕事に就いても求められるスキルです。また、社会人として自らが暮らす地域、自らが営みをおくる地域を仕事を通して理解することは、多くの社会人が生涯に渡って取り組むテーマの1つでもあります。

先に述べたように、「龍の仕事展」に関わり企業文化を知ること、地域特有の気候・風土・歴史・文化・社会構造まで関連づけて理解する手法を学ぶことができます。また、地域を深く掘り下げて理解することで、自らの原点を知り、競合他社との差別化をすることで、新たなビジネスチャンスも見えてきます。

低迷する地方経済では、見落とされている既に存在する様々な価値を結びつけ直し、再構築することで新たな価値を生み、小さな経済を数多く回すという活性化手法も、生き残り戦略として重要となっています。

その様な視点や価値観を持つことができる人を育てる人材育成プログラムとして、企業文化に焦点をあてた地域文化の展示「龍の仕事展」を地域の大学と連携して活用しています。



大学生に向けて

社会とは何か？ 地域とは？ 組織とは？ 集団とは？ 会社とは？ 他者とのつながりや関係性を知り、それを通して自分を知る。それが社会を知るということです。社会人への入り口は自己啓発の始まりからです。

皆さんの意識が高ければアルバイトを通して十分に社会性を身につけることが可能ですが、アルバイト活動の中に人材育成、社会人教育などのスキルアップを求めた場合、職場環境や巡り会える周囲の人々に大きく左右されます。それに対し、本プログラムは基本的に大学生を対象とし、第一に人材育成を目的としたものです。環境や人に左右されず、プログラムを受けるチャンスが与えられます。

大学生がインターンシップに参加する目的としては、以下のものがあります。

- 社会人として「働く」ということはどういうことなのかを知る
- 社会経験を通じて自分に足りない能力を身につける
- 自分がどういう職業や業種に向いているかを見極める
- ビジネスマナーを身につける
- 今後学生生活の目標を明確にする
- 大学での勉強と実社会との関連性を見つける
- 大学での専攻分野に関連する業界の実情を知る
- 就職希望である業種の実情を知る
- 卒論・修論のテーマを見つける

就職すれば一人前の社会人になれる訳ではありません。先輩たちは社会人になってからも日々、努力し、勉強し、皆スキルアップをしています。理想はインターンシップなどの社会経験を活かして、大学で専門性だけでなく、自己実現を目指して必要な勉強を自発的にできる様な生き方を始めることなのです。そういった意味では、就職を目前にインターンシップに参加するのは遅いのです。

また、インターンシップに参加することは勿論ですが、経験を参加後の将来設計やキャリア設計に反映させることが大切です。その為には、振り返り、成果発表や事後研修を受けることがそれ以上に重要です。企業や地域が求めている真の人材とは、知識の暗記ではなく、自らの経験を通して、自らが気づくことでしか身につかない「自己啓発力」と「自己教育力」です。これこそが今、社会人に求められる重要な素養でもあるのです。



2018 参加企業：

【倉敷地区】カモ井加工紙㈱ [m t]/ とら醤油㈱ [黄ニラ醤油]/ 宍平翠軒 [おいしいものブティック]/ 大橋家住宅 [国指定重要文化財]/ ㈱タケヤリ [帆布製品]/ クラブン㈱ [うさぎやオリジナルブランド]/ ㈱丸五 [たばりら]/

【児島地区】ナйка塩業㈱ [塩]/ 児島ジーンズストリート [DANIA JAPAN/EDGE OF LINE/JEANZOO/Kojima market place/SHIFT0]

【総社地区】アキテックラボ㈱ [パイプ枕原料]

【高梁地区】日本貿易産業㈱ [人形の喜峯]

【新見地区】㈱クニファーム [フルーツトマトのジャム・ドレッシング]/ 新見市企業体 [有寿司一/ ㈱新見庄あしだち本店/ カツマル醤油醸造㈱]

【備中地区】CREATIVE COLLABORATION 「倉式」 Movement of type-KURA 【倉敷】Glass Beads Makoto/ 臈堂/ 倉式 type-KURA/ 倉敷會原屋

D-INTERNSHIP 2019 PROGRAMS

このプログラムは、【事前研修】≫【企業研修】≫【中間研修】≫【直前研修】≫【P D C A実践（龍の仕事展）】≫【成果発表】≫【事後研修】≫【最終成果発表会】の8つのプログラムから成ります。【成果発表】までは、参加者全員が必須のプログラムです。【成果発表】までに優秀な成果を修めた学生の中から、一般公開の最終成果発表会に向けた特別研修【事後研修】と【最終成果発表会】を受けることが可能です。次に、優秀な成果を上げた学生から選抜で【事後研修】（1ヶ月の中で2日～3日）を受けた学生が一般公開の【最終成果発表会】（1日）を経て、優秀修了証を受け取れます。【成果発表】までの研修で優秀な成績を収めた学生には奨励修了証、規定内のプログラムを修めた学生には修了証を、規定内に達しなかった学生には参加証を発行します。

募集期間

2019/5/07 TUE - 6/18 TUE HP上から各自本人が申し込み

公式HPならびに本要綱を熟知し、すべての条件を了承してお申し込みください。《追加募集は行いません。お早目にお申し込みください》

事前研修Ⅰ【必須】

2019/6/23 SUN 10:00-17:00 会場：倉敷労働会館 大会議室

事前研修Ⅱ【必須】

2019/6/30 SUN 10:00-17:00 会場：倉敷労働会館 大会議室

龍の仕事展を通して地域貢献のあり方を学び、プログラムへ参加する意義と心構えを再認識すると共に、企業訪問をするために必要なマナー・コミュニケーションの基礎を身につけます。（6/23と6/30の2日間両日とも、必ず受講してください。お昼は各自ご用意ください）

企業マッチング

2019/6/30 SUN - 7/02 TUE 事務局・講師3名にて

《専門性・希望担当企業や事前研修の評価により講師がマッチングを行います。事務局の業務です。（学生は参加しません）》

企業交流会

2019/7/03 WED 17:30-19:30 会場：倉敷商工会議所 会議室

企業が龍の仕事展での課題を共有し、協働プログラムの在り方と質の向上を考えます。（学生は参加しません）

企業研修【必須】

2019/7/04 THU - 9/13 FRI 各自がアポをとり企業へ訪問し研修

3回以上、企業へ訪問し、企業と協働で以下のことに取り組みます。期間は約2ヶ月程ですが、求められる内容に左右されますので早めに企業へ訪問しましょう。必ず進捗状況をリアルタイムで事務局に報告・連絡・相談してください。

販売促進ツールの作成や展示の準備など、デザインやプロダクトの制作にスキルがなくても事務局（久保田）が支援します。素案は8/18までに。企業研修中の交通費は公共交通機関のみ後日清算できます。

（成果発表の時に精算：領収証が必要です）

- ①企業の歴史・理念・商品を理解。
- ②企業が考える龍の仕事展での目的・目標・課題の共有。
- ③企業へ課題実現の施策を提案。
- ④龍の仕事展に向けた準備。



中間研修【必須】

2019/8/18 SUN 10:00-17:00 会場：倉敷労働会館 大会議室

【補講】

2019/8/25 SUN 10:00-17:00 会場：倉敷労働会館 大会議室

企業や事務局に対しての「報・連・相」の徹底。企業研修の進捗状況を学生同士で話し合い、情報を共有。他者の取り組みを参考に、自分が取り組んでいる施策・達成目標の見直しやブラッシュアップを行う。龍の仕事展終了までの行動計画表を作成する。

企業と協働でつくる印刷物などの販売促進ツールは中間報告に素案を持ち寄ること。

（基本的に8/18で予定を立ててください。どうしても無理な方は8/25の補講を受講してください。お昼は各自ご用意ください）

直前研修【必須】

2019/9/09 SUN 10:00-17:00 会場：倉敷労働会館 大会議室

5日後に始まる「龍の仕事展」における最終確認。自ら取り組む施策・達成目標を学生同士で話し合い、情報を共有。自分の担当ブースだけでなく、周辺のブース企業、関連ブース、会場全体の取り組みを理解し、把握することで、互いの連携し支援しあえる土壌をつくります。

PDCA実践【必須】**2019/9/14 SAT - 9/23 MON 龍の仕事展 期間中 6 日間必須。初日、最終日は必ず参加すること。**

9:00-18:00 【9/19 THU は休業】

会場：倉敷アイビースクエア アイビー学館

大学生が企業の顔として、龍の仕事展の企業ブースを任されます。朝・夕のミーティングを通して目標、対策、反省、改善案など発表し、毎日PDCAサイクルを回すことで目標達成を目指します。さらには会場全体へ目を向けることで協働の相乗効果を実践・体感します。

展示会は 10:00-17:00 ですが、前後にミーティングと準備・清掃を行いますので**研修は 9:00-18:00** となります。昼食は簡単な食事を用意してあります。会場では自由に飲める飲み物を用意しています。9/14(土)～9/23(月・祝)の「龍の仕事展」の期間中の交通費として 1 日あたり一律 2,000 円を支給します。(成果発表の時に精算：ただしアンケートとレポートの提出と交換 / 領収証不要)

成果発表【必須】**2019/10/6 SUN 10:00-17:00 会場：倉敷労働会館 大会議室**

インターンシップ・プログラムの全体を通して、何に気づき、何を学び、何を得たかを振り返ります。更に、今後の人生にどう活かすかを考えます。

(全員 10/06 で予定を立ててください。補講はありません。お昼は各自ご用意ください)

評価・選抜・確定**2019/10/6 SUN - 10/9 WED****事務局・講師 3 名にて**

《インターンシップ・プログラムの全体を通して講師が評価を行い次のプログラムを受講できる学生の代表を決めます。事務局の業務です》

事後研修【選抜】**2019/11/01 FRI - 11/30 SAT****個別会場：各大学など****倉敷会場：倉敷労働会館 大会議室**

研修全般を通して優秀な学生から優先に選抜して、振り返りのブラッシュアップ、プレゼンテーションや伝える伝え方のスキルアップの事後研修が受けられます。(有料ならば数万円相当の研修内容です。研修日・会場は応相談となっております。休日や平日の大学の授業後の受講が可能です)

最終成果発表【選抜】**2019/12/01 SUN 10:00-17:00****会場：倉敷労働会館 101大会議室(大ホール)**

一般公開の成果発表会です。代表の 8 名の学生が 10 分の持ち時間で成果を発表します。更に優秀な学生を表彰します。選ばれなかった学生も可能な方は、ぜひ傍聴してください。

(発表会は 14:00-16:00 ですが、午前中に準備とリハーサルを行いますので**研修は 10:00-17:00** となります。お昼は各自ご用意ください)

D-INTERNSHIP 2019 注意事項

■各講習会：交通費の支給はありません。服装は普段着で構いませんが、清潔感のある好感もてる服装でご参加ください。(評価対象となります)

■企業研修：交通費は公共交通機関のみ後日清算できます。(成果発表の時に精算：領収証が必要です)

服装は普段着で構いませんが、清潔感のある好感もてる服装でご参加ください。(評価対象となります)

■PDCA実践・龍の仕事展：

「龍の仕事展」の期間中の交通費として 1 日あたり一律 2,000 円を支給します。(成果発表の時に精算：ただしアンケートとレポートの提出と交換 / 領収証不要) 最終日は終了後、交流会があります。(1 時間ほど)

- ① 会場は季節柄、暑いので軽装で OK です。(龍の仕事展ではスタッフ・ポロシャツを、一人 2 枚支給します) 申込フォームでサイズを選択してください。
- ② 会場の床は石ですのでつまづきにくい靴が望ましいです。
- ③ 企業の方々と名刺の交換の場面もあります。各自名刺をご用意ください。
- ④ 毎日、出勤簿へ捺印してもらいます。**毎日、印鑑をお持ちください。**(印鑑を忘れた場合は交通費が支給されない場合があります)
- ⑤ 成果発表の時に簡単なアンケートとレポートを提出していただきます。(忘れた場合は交通費が支給されない場合があります)
- ⑥ 急なことで欠勤・遅刻の場合は、事前に必ず久保田・浅越・森田へ報告してください。
- ⑦ 各自が担当するブースで必要と思われるものは企業担当者に相談の上ご用意ください。判断できないものは、久保田に相談してください。
- ⑧ トラブルが起きた場合、不審者を見かけた場合、久保田・浅越・森田へ報告してください。
- ⑨ 万一来場、申込フォームで血液型を選択してください。
- ⑩ スタッフ用のネームカードを用意します。会場では首からかけて使用してください。
- ⑪ 携帯電話に「龍の仕事展 久保田」で 090-7502-6177 を登録してください。
- ⑫ 携帯電話で PC からのメールを拒否している方は、botta@project-g7.com を許可してください。
- ⑬ D-INTERNSHIP の参加者は活動記録を含めて写真を撮らせていただきます。撮影した写真は HP やブログ、facebook に掲載されます。
- ⑭ 責任体制：各大学が用意するインターンシップ保険に参加者負担で必ず加入してください。

■受講停止：参加学生の行動が本研修プログラムの進行に著しく支障をきたすと講師 3 名が全員一致で判断した場合、その学生の本インターンシップの参加・活動をプログラムの途中でもお断りすることがあります。

Message

■D-INTERNSHIP実行委員からの推薦文

■質の高いインターンシップとは

インターンシップにはいろいろな定義がありますが、就業体験を行う点が共通して重視されています。学生たちが就業体験を積み、社会に出て働くということがどういうことなのか、さまざまな気付きを与えてくれるのがインターンシップの効果であると言えます。

しかし、最近では「ワンデーインターンシップ」が広く普及し、学生側に就業体験を求めるのではなく、会社見学や企業説明会による就職・採用活動となるケースが多くなってきています。そこで、今求められているのが、産学協働による人材育成の観点に基づいた、教育活動としての質の高い長期インターンシップです。

D-INTERNSHIPは、まさにこの条件を兼ね備えています。すなわち、(1) 地域(高梁川流域)のものづくり企業と学生が協働するインターンシップであること、(2) 学生の職業意識や就業力を高める教育的効果の高い人材育成プログラムであること、(3) 地域課題の解決に向けて、6月の事前研修に始まり12月の最終成果発表会までの長期にわたるインターンシップであることの3条件をすべて満たしています。

D-INTERNSHIPには、倉敷芸術科学大学からも継続的に多くの学生が参加しています。担当する企業を事前に訪問して、企業理念、経営方針、企業文化、展示ブースでの役割を学び、企業が用意する研修プログラムを受講。それぞれの課題や目標を設定して製品の説明と販売に臨みました。

前原敬太さん(経営情報学科)は、「笑顔での接客を心がけ、販売目標額を達成するために、どのように工夫すればよいのかを実践的に学ぶことができました」と話していました。販売の厳しさと喜びの一端を学び、将来設計やキャリア形成に対する意識が一層高まったとのこと。このように、多くの教育的意義を有する質の高いD-INTERNSHIPの益々の発展充実を強く願っています。

倉敷芸術科学大学産業科学技術学部長・教授 小山悦司

■社会人になる大きなステップ

吉備国際大学外国語学部では、3年生のインターンシップⅡの科目で、D-INTERNSHIPに学生が参加しています。一言でいうと「学生が変わる」。このプログラムに参加する前と参加の後では大きな変化があります。お辞儀の仕方、話し方(音量、明瞭性など)、姿勢などが見違えるぐらい向上します。これは担当教員としての「驚き」であります。

このプログラムの強みは、龍の仕事場で、学生が高梁川流域にある担当企業の「社員」となり、商品売って社会人としての技能、技術、姿勢を実践的に学ぶことです。学生たちは、決められたスペースに、どのように商品を配置し売るのが企業と共に考えます。そして、龍の仕事展開催中は、毎日、売上げ目標が示され、作戦を練らなければなりません。しかし、「思うようには売れない」どうするのか…、学生たちは毎日考えます。それまで企業研修で企業の方々と一緒に企画し、準備した計画を、龍の仕事展の実情(天候・入れ込み状況・周辺のブースとの連携など)に合わせて、企業の担当者や相談しながら変更していきます。また、任された責任から、在庫管理などを学んでいきます。そして、毎日、Plan-Do-Check-ActionのPDCAサイクルを回す様に指導されます。ビジネスの真剣勝負を学生は経験させてもらえる、このような実践的なことを大学で教えることは不可能です。だからこそ、このプログラムはすごいのです。

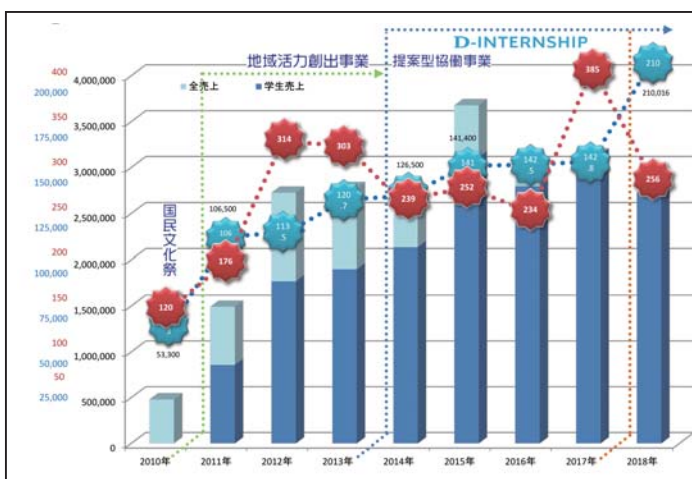
見逃せないのは、このプログラムを運営するスタッフにもあります。計画性・実行力はもとより、スタッフの熱意とたたかひに計算された指導力、そして、学生のちょっとした変化を見逃さない配慮・注意力が伝わってきます。学生は20歳を過ぎた大人であっても、ちょっとしたことで意欲の低下を起こします。気が緩みます。それをスタッフは見逃さず、何の遠慮もなく、的確に指導を入れてくれます。ベテラン社会人のすごさであり、学生にとっては、社会人になるための試練でもあります。この様なスタッフの指導で学生たちは大きな学びを経験するのです。

さらに、このプログラムの究極のすごさは、プログラムに参加している間は「大変だ」、「つらい…」と言っている学生が、修了してしばらくすると、「来年も参加してみようかな?！」とつぶやくことです。半年に渡るこのハードなインターンシップ・プログラムを学生たちは「社会人になるための実践経験である」と暗黙的に理解しています。

吉備国際大学外国語学部 教授 畝(タンポ) 伊智朗

Results

■9年間の本事業の成果(2018年事業結果報告会資料より)



棒グラフは会場での総売上を示し、青い部分は学生たちが販売を担当した部分である。年々、学生たちが会場での売上を伸ばしていることが見て取れる。また、折れ線グラフの青が物販を行っている企業ブースの売上平均額で、赤が客単価である。

2018年は西日本豪雨の被害を受け開催も危ぶまれる中、企業ブース数、参加学生数が最低であったが、2018年のインターンシップの学生たちは、企業ブース売上平均額(210,016円)を前年度より1.47倍に伸ばし結果を出した。

これは学生たちの頑張りはもちろんのこと、企業ブース数、参加学生数が少ないことを逆に、企業研修へ講師が同行し、企業が学生に求める課題を明確にし、学生たち目標達成に対し細やかな指導を行った。つまり、学生を受け入れる企業と学生との課題の共有が上手く行ったことの証でもある。

INTERNSHIPで何を学ぶのか

私たちが目指すインターンシップ・プログラムは、就職活動で優位に立つための目先のテクニックや形だけのビジネス・マナーを教えるものではありません。

高校までの教育と大学からの教育は大きく変わります。高校までは先生が勉強を教えてくださいましたが、大学からは自ら学ぶことになります。当然、学びは就職が最終地点ではなく、社会に出てからも一生勉強です。社会人は各々が自己実現に向け、自分に何が足りなく、その為には何を学ぶべきかを考え、自らを高めています。そういう能力を「自己啓発力」「自己教育力」と言います。言われたことだけをやるアルバイトではなかなか身につけにくい部分です。

地方の多くの企業が大学生に求めるスキルは、大学で学ぶ専門知識以上に、この「自己啓発力」や「自己教育力」を求めていることが明らかになってきました。しかしながら、これは一種の「哲学」でもあり、先輩の社会人も生涯求め続ける終わりのないテーマでもあります。

では、その力はどうすれば身につけられるのでしょうか？ その答えの一つに「客観性を身につけること」が新人の社会人に求められます。人は思春期以降、自我の確立（自分とは何か）を求め、自分を掘り下げて行きます。しかしながらその行為は主観的なものの見方に偏ります。自分を客観視し、自分に本当に何が足りないかに気づくには、他人との関わりが重要となるのです。その為にも伝わるコミュニケーション・他者に寄り添えるコミュニケーションが重要になります。他人との関わりの中で、他者を理解し、他者を通して自分を知るということを繰り返し、真の「自己啓発力」や「自己教育力」を少しずつ身につけていくことができるのです。

その様な理屈を人からどれだけ聞いても、その能力が身につく訳ではありません。自らの経験を通して「気づき」が得られない以上、ただの知識で終わります。インターンシップを経験した学生が、相手の顔もろくにみえず、原稿を見ながら「このインターンシップを通してコミュニケーション能力が身につきました」と発表しているのをよく目にしました。

大学は本来アカデミックな場ですから、大学生が専門を学ぶということは最も大切なことです。それに加えて、学外で社会に触れ、広い視野で、働くとはどういうことか？ 会社とは？ 地域とは？ 社会とは？ などを考え始め、他者とのつながりや関係性を知り、他者を通して自分を見つめ直す。そこから、自己啓発という哲学を始める。これも、親も大学も教えてはくれないが、社会に出る前の大学4年間の内に準備しておくべき大切なことなのです。

これが私たちが目指すインターンシップの目的です。そして、約半年間のプログラムの中に、その目的に至るための数多くの「気づき」が与えられるプログラムになっています。大学に入ったばかりの1年生からでも、大学に慣れた2年生、就活を意識し始めた3年生、就活中の4年生でも大歓迎です。私たちと「哲学」を始めましょう！



D-INTERNSHIPの講師

このプログラムは、6月末の【事前研修】に始まり、12月初めの一般公開の【最終成果発表会】まで、約半年間のインターンシップです。

形だけの研修やインターンシップではなく、3名のプロが大学生に本物の気づきを与えるためのプログラムを用意しています。

また、大学生の皆さんに本気で関わってくれる企業の方々、そして会場に來られるお客様も、このプログラムの重要な講師と言えます。



講師：森田恵子（マナーコミュニケーション / ビジネスマナー / 口頭表現 担当）

- ・おかやまアナウンス・ラボ株式会社 (OAL) 代表取締役 / フリーアナウンサー
- ・一般財団法人生涯学習開発財団認定コーチ / 後継者の軍師認定コンサルタント
- ・就実大学表現文化学科非常勤講師 / ノートルダム清心女子大学日本文学科非常勤講師
- ・第十二代おかやま着物文化人（びと）



講師：浅越昌子（マナーコミュニケーション / PDCAサイクル・プログラム 担当）

- ・おかやまアナウンス・ラボ株式会社 (OAL) サポート講師
- ・バルーンアーティスト：ルーシー
- ・倉敷路地市庭サポーター



講師：久保田正彦（地域戦略 / マーケティングセミナー / 販促ツール・デザイン支援 担当）

- ・DESIGN STUDIO PROJECT-G 代表 / CREATIVE COLLABORATION「倉式」Movement type-KURA 代表
- ・龍の仕事展実行委員会 事務局長 / D-INTERNSHIP 実行委員会 事務局長
- ・倉敷曾原屋 代表
- ・おかやま山陽高校マイスターズ学校非常勤講師 / ノートルダム清心女子大学非常勤講師





事前研修 I worksheet [/ /]

事前研修 I の目的：本インターンシップの主旨・全体の流れ・ルールを理解し、自らの参加目的・参加目標の再設定を行う。

事前研修 I の目標：積極的にグランドルールに取り組み、本インターンシップに取り組む姿勢を体得する。

グランドルール：①相手に届く声で ②時間を守る ③場に貢献する

【05 分】

§ 00 キャリアをどうとらえるか

【45 分】

■自分のライフプランを描こう (22 歳で就職) 7': 各自 18': 共有 (各自 3' × 6) 5': 各自 15': 解説

22 歳 -28 歳 6 年間

28 歳 -34 歳 6 年間

34 歳 -40 歳 6 年間

40 歳 -50 歳 10 年間

50 歳 -60 歳 10 年間

60 歳 -70 歳 10 年間

70 歳 -80 歳 10 年間

タイトル

■キャリアをどうとらえるか

3 つの Keyword

§ 01 プログラムの全体の流れ

【60 分】

■D-INTERNSHIPとは

3 つの Keyword

■事前研修 I [/ /]

POINT

■事前研修 II [/ /]

POINT

■企業研修 [/ - /]

POINT

■中間研修 [/ /]

POINT

■直前研修 [/ /]

POINT

■PDCA 実践 [/ - /]

POINT

■成果発表 [/ /]

POINT

□事後研修 [/ - /]

POINT

□最終成果発表 [/ /]

POINT

報
・
連
・
相

worksheet

■企業研修 worksheet とは

大学名

氏名

中間研修 worksheet [/ /]

龍の仕事展を活用した人材育成プログラム
D-INTERNSHIP

§ 01 あなたが担当する企業の名称と取扱商品は

企業名

取扱商品

§ 02 どんな企業ですか (企業を代表する特徴を3つ上げる (キーワードと解説))

§ 03 あなたが龍の仕事展で扱う商品は何ですか

.....

.....

§ 04 その商品の特徴 (セールスポイント) を3つ上げる (キーワードと解説)

§ 05 あなたが担当する企業の「龍の仕事展」における目的は何ですか

.....

.....

.....

§ 06 あなたが担当する企業からいただいた課題は何ですか

・定量的課題：売上などの数値目標

.....

.....

・定性的課題：数値になりにくい目標

§ 07 その課題に対して何を提案し、どんな行動をしましたか

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

§ 02 商品とは何か

【30 分】

■デザインマネージメント

4 つの Keyword

MEMO

TDL：チケット 44% 物販 34% 飲食 22%・アトラクション 32% ショップ 33% レストラン 35%

§ 03 コミュニケーション力をアップさせ、インターンシップを楽しもう

【60 分】

■社会人に必要なコミュニケーション力とは

- ・あなたは誰？
- ・コミュニケーションの基本は「聴く」こと
- ・「聞く（聴く）」ことができれば話す（伝える）もうまくなる
- ・「意識の矢印」あなたはどちらを向いている？

§ 04 報・連・相は、責任と義務

【30 分】

■報・連・相とは

- ・ホウ「報告」：
- ・レン「連絡」：
- ・ソウ「相談」：
- ・T P Oが大事

§ 05 目的・目標・振り返り・対策

【30 分】

■ピンチをチャンスに変える魔法：

- ・Plan「計画」：
- ・Do「実行」：
- ・Check「評価（原因分析）」：
- ・Action「改善」：
- ・陥りやすいケース：
- ・成功するケース：

【30 分】

• <<

• <<

• <<

【10 分】

- 龍の仕事展とは何か
- ロープレ企業の選定
- worksheet の模擬作成

[illegible]



事前研修Ⅱの目的：円滑な人間関係を築くために、相手を理解し思いやりのある聞き方、意思伝達の技術を身につける。

事前研修Ⅱの目標：他者を通して自らのコミュニケーションの状態を知り、信頼される聞き方・伝え方を体得する。

グラドルール：①相手に届く声で ②時間を守る ③場に貢献する

【05 分】

§ 01 傾聴力を高めよう

【60 分】

■あなたは思った以上に聴いていない (3'：各自 9'：ローテ(各3'×3) 3'：振り返り)=15'×3 テーマ=45'

① 話し手が聞き手に「お題」を話す。【1 分】

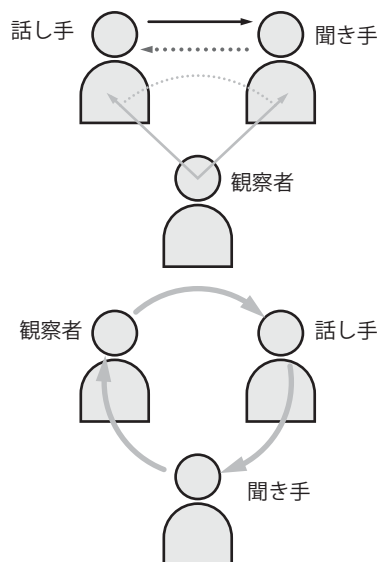
聞き手はメモを取らず傾聴に徹する。

観察者は場を乱さず傍観する。

② 聞き手は「話し手」の主旨を自分の言葉で確認する。「つまり、○○○ということですね」【30 秒】

話し手は主旨の正誤を確認必要があれば修正する。【30 秒】

③ 観察者は2人のやりとりがどうであったかを伝える。【1 分】



■話し手のポイント

- ① 主旨(最も伝えたいこと)を絞る >>(× 言いたいことが不明確)
- ② 構成法で伝える >>(× 思いつくまま話している)
- ③ 短い文章で伝える >>(× 尾ひれがつく × 脱線する)

■聞き手のポイント

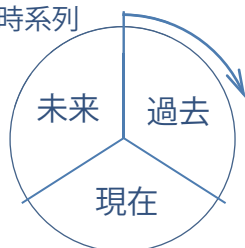
- ① 意識の矢印：興味・関心・好奇心
- ② 相手が話したいことは、何だろうかと常に意識する
- ③ 相手が気持ちよく話ができるようにする
アイコンタクト / 姿勢 / 相づち / 復唱 / 共感

■観察者のポイント

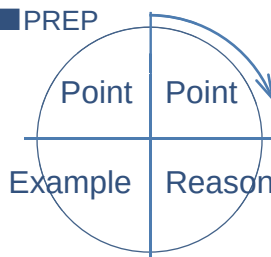
- ① 評価ではなく見たまを正しく伝える
- ② 決して主観を挟まない
- ③ 【事実】と【影響】を分けて伝える

■構成法

■時系列

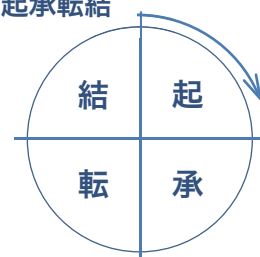


■PREP



Point: 結論(要点、核)
Reason: 根拠となる事柄
Example: エピソード
Point: 結論(まとめ)

■起承転結



【お題】 ① D-INTERNSHIP の目的と目標

② 龍の仕事展とは

③ 自分たちのグループが対象とする企業とは

§ 02 企業研修に向けて

■ 企業訪問までに準備する事 ―訪問までにすべきことの確認―

【45 分】

■ 訪問準備

①

②

③

④

⑤

■ 情報収集

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

■ 訪問直前

①

②

③

④

⑤

■ 何をしに企業研修に行くのか

①

②

③

④

⑤

■ 企業研修の目的と目標

● 目的

● 目標

【90 分】

.....

.....

.....

.....

.....

[illegible]

.....

.....

.....

[illegible]

【90 分】

This image shows a full page of white paper with horizontal dotted lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting or typing. There are no margins, text, or other markings on the page.

【30 分】

[illegible]

【10 分】



中間研修 worksheet [/ /]

§ 01 あなたが担当する企業の名称と取扱商品は

企業名

取扱商品

§ 02 どんな企業ですか (企業を代表する特徴を 3 つ上げる (キーワードと解説))

§ 03 あなたが龍の仕事展で扱う商品は何ですか

§ 04 その商品の特徴 (セールスポイント) を 3 つ上げる (キーワードと解説)

§ 05 あなたが担当する企業の「龍の仕事展」における目的は何ですか

§ 06 あなたが担当する企業からいただいた課題は何ですか

・ 定量的課題：売上などの数値目標

・ 定性的課題：数値になりにくい目標

§ 07 その課題に対して何を提案し、どんな行動をしましたか



直前研修 worksheet [/ /]

§ 01 担当企業と取扱商品

企業名

取扱商品

§ 02 企業の特徴

§ 03 「龍の仕事展」での取扱商品

§ 04 セールスポイント

§ 05 担当企業の「龍の仕事展」の出展目的

§ 06 企業と共有した課題

§ 07 課題に対する提案と行動計画

§ 08 会場設営と商品搬入・商品搬出と片付け

§ 09 企業との連携（在庫管理、担当者との報・連・相）

§ 10 周辺ブースとの連携

§ 01 成果発表のきも

龍の仕事展の9日間は企業と課題を共有し目標の達成を目指してきました。しかし、これ自体も D-INTERNSHIP 中の「PDCA実践」というプログラムの一部に過ぎません。龍の仕事展での企業の課題や目標の対する成果に固執しない様に注意してください。

D-INTERNSHIP 参加前の自分と違う自分に気づき、様々な体験から、これからの大学での学業や自分の人生に、新たな課題や明確な目標をもつことが最終目的です。

まず、事前研修から始まり、企業研修、中間研修、直前研修、龍の仕事展のPDCA実践までの一連のプログラム全般を丁寧に振り返りましょう。

§ 02 成果発表のアドバイス

- ① インターンシップ・プログラムの全体を通して、何に気づき、何を学び、何を得たかを振り返り、更に、今後の人生にどう活かすかを考えて発表してください。
- ② 何を得たかを振り返りでは、具体的な事例を挙げてください。
ありきたりの抽象的な表現ではなく、聞く人が目に浮かぶ具体的な経験、実際にあったエピソードや体験から得たものを自分の言葉で正確に語ることを望んでいます。
- ③ 語尾にも気をつけて表現しましょう。
「身につきました」なのか、「気づきました」なのか…。
「理解しました」なのか、「学びました」なのか…。
「体験しました」なのか、「体感しました」なのか…。
恰好をつけず、等身大の表現で、正直に、ありのままを表現してください。
- ④ 結論を先に。一文を短く。また全体の構成も大事です。事前研修で学んだ「PREP」などの構成法、伝わる伝え方にも挑戦してみてください。冒頭では呼び掛けたり、小物を用意したりするなどの聞き手を引きこむ手法にも取り組みましょう。
- ⑤ 見た目、聞く側にたった思いやりも評価対象です。
身だしなみ、服装、挨拶（お辞儀）、声の大きさ、間の取り方、話すスピード、会場への目配せ、語尾まできちっと言えているか、接続詞をきちっと使っているか、時間管理、なども講師は見ています。
- ⑥ 内容の評価視点
目的をもって行動してきたか、具体的な体験を通して自分の中から湧き出てきたものか、明日・将来に繋がっていく可能性、事業価値を理解していたか、マーケティングを自ら学び活かしたか、なども講師は評価します。

※龍の仕事展後は、企業の方々にも皆さんからお礼を伝え、都合が合えばぜひ成果発表を聞いてもらいましょう。

§ 03 提出物と用意するもの

- ① 5分間の発表の原稿
- ② アンケート調査票（ダウンロードしてください）
- ③ 企業研修時の交通費等精算（事前に精算の申告をしている方。領収書が必要です）
- ④ 印鑑（印鑑が無ければ龍の仕事展の交通費を渡せません。必ずお持ちください。）
- ⑤ お弁当・飲み物・筆記用具

D-INTERNSHIP



2019

太古から数知れぬ人々が
この流れによつて生き
またこの流れによつて生きた人々によつて
守られ、利用され
郷土の文化を生み、産業を育て
歴史の流れと共に人々の生命の糧となり
魂の故郷となつた

大原總一郎「高梁川流域連綿趣意書」より